

■ 夢づくりプラン「吉備の国歴史探検ツアー」

岡山県立博物館では、今年度から本県の夢づくりプランとして二つの企画がスタートしています。

一つ目は「吉備の国歴史探検ツアー」です。これは、学芸員添乗のバスに、日頃県立博物館に訪れる機会の少ない地域の子どもたちが乗り、岡山県内の歴史文化遺産に触れるとともに博物館を見学し、学習を深めてもらうことをねらいとしたものです。今年初めての試みでもあり、児童生徒の募集や当日の行程、子どもたちへの学習資料などの検討を重ね、まさに手探り状態の中でスタートしました。

本年度は高梁、津山、井原の3コースを設定し、高梁は5月、津山は7月、井原は8月で計画をすすめました。

まず、高梁コースでは見学場所に吉備路の造山古墳を選び、約1時間の見学をしました。頂上まで登り、石棺のまわりで学芸員が説明をし、古代の吉備の世界に思いを廻らせます。博物館ではすべての展示室を学芸員の解説を交えて見学し、後半は自由に見学をしてスケッチを描いたりメモをとったりして時間を過ごしました。当日、館から配布したワークシートに、子どもたちは思い思いに記入していきます。見学途中で疲れてしまったり、まだまだ時間が足りないと、もう一度展示室に走り出す子どもたち、スケッチの枠をはみ出して阿弥陀像を描いている男の子、体験コーナーで兜を

かぶり、鏡とにらめっこしている女の子など、短い時間の中で見せてくれる子どもたちの笑顔は本当に微笑ましいものでした。

次の津山コースでは久米南町の誕生寺を訪れ、鎌倉仏教の世界に触れ、法然上人について学びました。誕生寺の住職様からの説明ののち、宝物館を含め、境内を案内していただきました。小雨の降る中でしたが、法然上人の産湯の井戸をのぞいたり、バスの中でさっそくメモをとったりするなど、時間はあっという間に過ぎていきました。



誕生寺にて

最後の井原コースでは旧矢掛本陣を訪ね、大名宿について学びました。

今回の成果は発表用シートにして館内に掲示するとともに、ツアーの様子はホームページ上に掲載しています。さらに、ツアーで得られた成果を刊行物としてまとめ、本館の広報活動の一環として広く県下に配布の予定です。

来年度以降も県内の地域を選び、子どもたちの笑顔に出会えることを楽しみに計画していきます。

ツアーのバスに乗った子どもたちが岡山県の歴史と文化に思いを廻らせ、また、再び博物館を訪れてくれることを期待しています。

(学芸員 鈴木力郎)



造山古墳の石棺見学



参加記念のワッペン

夢づくりプラン 「ミュージアムブリッジinおかやま・かがわ」

今年度のもうひとつの夢づくりプランとして、現在進行中の岡山・香川交流展があります。これは瀬戸内海をはさみ隣県である両県が共同の展覧会を実施することで、文化面の交流を推進するこ



高松市屋島山頂にて

とを目的に実施するものです。香川県高松市の香川県歴史博物館では岡山県立博物館所蔵の備前焼の名品を展示します。また、岡山県立博物館では、香川県の高松松平家伝来の名宝を展示します。文化の交流をすることで県民どうしの交流もすすみ、文化の大きな架け橋となることを期待しています。

この交流展では互いの県が協力し、すすめていくことはもちろんですが、この成功を支える力として互いの館のボランティアスタッフの方々がおられます。それぞれの交流展の際には、ボランティアガイドとして展示の案内も計画していますが、果たして備前焼の説明ができるのか、高松松平家について話ができるのか、という不安もありました。そこで、この交流展の成功のため、お互いの研修会を持ち勉強を深めようということになりました。

互いの県を訪問することは大変な面がありますが、参加された方々は備前焼の学習会、高松松平家の学習会を始め、互いの館の見学や備前焼の窯元の見学会、さらに、松平家ゆかりの高松での寺院見学と研修会を重ねています。ボランティアガイドのための研修なのですが、幾度かの研修会を通じて交流もすすみ、備前焼についても共通の話題を持つことができ、松平家についても談義することができるようになりました。この様な交流こそがすばらしい架け橋であるように思います。

備前焼の研修会の後、展示室で、桃山時代の大甕をご覧になった方が、これだけの堅牢な甕はただ蓄えのためだけでは惜しいと言われたことがありましたが、確かに備前焼の用途はさまざまな面やたくさんの趣があり、そのような文化の奥深さについても学んでいけるような交流ができるとより意義深いものになるのではないのでしょうか。

それぞれの研修会は両館を会場にして交互に行われ、2月の交流展開催に向けて、交流がすすんでいます。岡山、香川の方々はどちらの研修会にも参加でき、岡山の方が香川歴史博物館でガイドをされ、香川の方が岡山県立博物館でガイドをされます。また、両県の方が地元の博物館でガイドをされることもあるでしょう。両県の方々のすばらしい交流を期待しています。

(学芸員 浅野慎太郎)

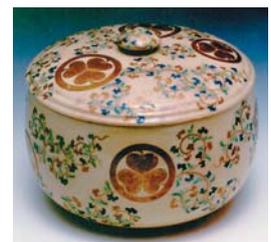
ボランティアガイド研修会の予定

7月24日	備前焼についての学習会1
8月23日	高松松平家名宝の学習会1
9月24日	松平家ゆかりの地、研修会
10月29日	備前焼窯元廻り、研修会
11月16日	備前焼についての学習会2
12月15日	高松松平家名宝の学習会2
12月～1月	ボランティアガイド練習会
2・3月(会期中)	ボランティアガイド実施

交流展 ミュージアムブリッジinおかやま・かがわ
「高松松平家の名宝」

会期 | 平成19年2月8日(木)～3月11日(日)

高松松平家は徳川御三家の一つである水戸徳川家の筆頭分家であり、徳川家康の孫である松平頼重を初代とし、幕末まで11代にわたり高松藩を治めました。この度の展覧会では、同家に伝来した大名道具の中から、公式な場で用いられた表道具を中心に展示し、その歴史や文化の一端を紹介致します。あわせて、高松松平家成立の歴史や、将軍家・御三家との関わりなどを、系図や地図、写真パネルなどで紹介をしていきます。なお、香川県歴史博物館では特別展「備前焼～炎が生み出す窯変の美～」が開催されます。



いろえきんあおいからくさもんみずさし
色絵金葵唐草文水指
(香川県歴史博物館保管)

香川県歴史博物館・特別展

「備前焼～炎が生み出す窯変の美～」

会期 平成19年2月10日(土)～3月18日(日)

■ 特別展「歴史の中のあそびとまなび」 ■ 博物館に響く声

今年の夏休み、館内に響く声が通常とはかなり違っていました。子どもたちの生活の中心である「遊びと学び」にスポットをあてた特別展に多くの子どもたちの来館があったからです。

展示は、3つのテーマで構成しました。

1 『鎌倉から江戸時代のあそびとまなび』

中世遺跡からの出土品の独楽や羽子板という資料から、現代にもみられる遊びが約700年前から行われていたことに驚かれた方もおられたことと思います。また、「遊び」は大人と子どもが一緒に楽しんでいて、「遊び」と「呪い」が深く関わりあってきたこともお伝えできたのではないかと思います。寺子屋で使われた落書きのある「御手本」（教科書）からは、今も昔も変わらない子どもの姿を感じていただけたのではないのでしょうか。

2 『明治時代以降のあそびとまなび』

学校という制度が生まれてからの学びの様子を「小學讀本」を始めとする教科書、ブリキ製のランドセルなどの学習用具や昭和初期の教室の再現などで紹介しました。ブリキ製の汽車のおもちゃやセルロイド製の人形、何度も補修して読まれた絵本の前では、子どもたちと訪れたお父さんお母さん、おじいちゃんおばあちゃんがじっと見入っておられました。

3 『歴史の中の子どもを育む大人の願い』

奈良時代の胞衣壺（出産後、胎盤を入れて土に埋めた壺）、背守り、また、上巳・端午の節供な

どの通過儀礼を紹介し、子どもへ注がれた大人の愛情の深さを改めて考える機会としました。

展示室では、「この教科書で勉強したんだよ。」といった大人と子どもの温かな語らいが聞こえ、ホールの畳スペースでは、子どもたちがおはじき、独楽などの昔のおもちゃに歓声をあげ、さらに大人たちがリズム良く剣玉の技を披露する音が響きました。会期中の土日には、博物館友の会のボランティアの方々が、竹鉄砲、竹とんぼ、折り紙を教える「おもちゃをつくろう」を行いました。多くの家族連れで賑わい、素朴なおもちゃで夢中で遊ぶ姿が見られました。また、関連行事の「はくぶつかんクイズラリー」「展示品をスケッチしよう」は、資料をじっくりと見てもらうよい機会になったと思います。

この展覧会で、多くの方に歴史を身近に、昔の人と自分が確かにつながっていることを感じていただけたのではないかと思います。そして、実物が私たちに様々なことを語りかけてくれるということ、実物だけが放つ輝きを子どもたちが少しでも感じてくれたら嬉しいことです。

（学芸員 信江啓子）



大人と子どもと一緒に

おもちゃをつくろう

資料紹介

せもん 背紋 ・ ひもどめ さしがた ひながた 紐留 繡形の雛形

赤ちゃんの着物は、背中に縫い目のない一つ身です。縫い目のない背中には魔物がつくと考えられていたので、着物の背中に、背守りとして縫い目や小裂、押し絵をつけて魔除けとしました。本資料は、大正～昭和時代、倉敷市の商家の娘さんが裁縫の稽古の際に使った背紋・紐留繡形の雛形で、約7cm四方の台紙に図案化された麻や松の葉、菱や扇などが色系で縫い取ってあります。和裁のテキストとして明治時代に発刊された『裁縫字比ま

なび』（篠田正作編）にも背紋や紐留の繡形が載っています。こうした稽古をして嫁入りし、母親となった当時の女性は、わが子が無事に成長することを祈りながら針をすすめていったことでしょう。

（学芸員 信江啓子）



博物館の教育普及事業

～子どもたちと博物館～

博物館では、現在実施している教育普及事業として、各展示会での展示解説、小中学生を対象とした「本物のよろいを着てみよう」、岡山県の歴史と文化をテーマにした「博物館講座」、県内の学校を対象とした「出前講座」があります。他にも、中学生対象の職場体験活動、大学生の実習活動などもあり、日程調整に苦労する時期もあるのが現実です。また、関連行事や講座など例年、定員以上のお申し込みがあり、お断りしなければならない残念な現状もあります。年間に博物館に訪れる観覧者の中で、子どもたちの数は決して多くはありません。歴史博物館として、次の世代を担う子どもたちにこそ、岡山県の歴史を伝えていきたいという思いは、それぞれの普及事業を実施する際の忘れてはならない使命であると思います。



職場体験活動の様子

さまざまな形で博物館の中を見た子どもたちは驚きや、時には感動さえ覚えて帰ります。5月に職場体験で訪れた中学生は資料整理の補助の作業の際に、時間内で整理は終わりませんでした。「後はこちらでします わたしの仕事ですから」という担当職員の言葉に強い責任感を感じて、仕事に対する使命と誇りを学んだと感想を返してくれました。何気なく、ごく自然のやりとりの中でのその言葉は、その子に責任の大切さを気付かせたと思います。

普段、子どもたちの姿は少ないですが、多くの子どもたちが博物館での発見や、驚きを通じて、博物館がもう一つの学校というぐらいに足を運んでくれるよう期待をしてやみません。日頃の展示を充実させることはもちろんですが、子どもたちが求めるものが何であるかをさらに検討を重ね、工夫し、訪れた子どもたちに感動と喜びを与えていける博物館でありたいと思います。子どもたちの目はとかく現代の先端を追いがちです。歴史を振り返らせる大きな役割を博物館が担っていると改めて認識し、普及事業に力を入れていきたいと思います。

(学芸員 鈴木力郎)

ただいま準備中！

企画展 「上寺山餘慶寺と豊原北島神社」
—備前南部の文化財—

県下三大河川の一つの吉井川の流れを西に見下ろす瀬戸内市上寺山にある餘慶寺と豊原北島神社は、奈良時代の開創と伝えられます。

この上寺山にある一寺六ヶ院、一社の総合的な調査を終え、ここに伝来する重要文化財・県指定重要文化財を含む、彫刻・絵画・武具などを紹介します。この展覧会を通じて、今日まで永らく守られてきた文化財を、さらに未来へと引き継いでいくことの大切さをあらためて考えていきたいです。また、この調査の成果は、上寺山を擁する地元の有志団体「上寺山をよくする会」が発行する図録にもまとめられます。この図録作成は岡山県立博物館、瀬戸内市教育委員会、寺院と神社、そして檀家や氏子といった地元の人々がさまざまな立場から互

いに協力するという新しい試みでした。さらには、柴田一先生をはじめとする研究者からの寄稿、福武文化振興財団からの助成も得ることができました。まさに郷土の歴史や文化を愛する心から生まれた一冊です。

(学芸員 中田利枝子)



岡山県立博物館だより 第66号

発行日/平成18年11月10日

発行者/岡山県立博物館 館長 芦田 和正

〒703-8257 岡山市後楽園1-5

TEL:086-272-1149 FAX:086-272-1150

URL <http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kenhaku/hakubu.htm>

R100
古紙配合率100%、白色度70%の
再生紙を使用しています